

分野 歴史

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など

銅造如来坐像

～唐津市山田 山田薬師堂～

■銅造如来坐像（どうそうによらいざそう）

薬師如来坐像は、像高64.0cm、面長16.0cm、面幅13.8cm、面奥16.6cm、肩幅25.5cm、胸厚21.5cm、腹厚21.5cm、肘張32.5cm、膝奥42.5cm、膝高（右）9.7cm、（左）8.5cmで肉髻部が省略された円形の頭部、円形に近い面相、肥満した体軀、類形化した衣紋等から高麗時代後期（1350前後）のものと推定される。

頭部は肉髻の盛り上がりがなく円頭形、螺髪は小粒で髪際から頭頂にいたる正面中央部には、太めの肉髻珠を嵌めた孔が穿たれている。

面相は、円形に近く、丸々とした量感があり、太く短い首につけられた二段になった二道と、くびれた顎の表現は他に例を見ないほどの肥満の相をつくっている。両眉は大きく弓状に描き、両眼はゆるやかな弧線を上下に組んで両瞼をつくり、眦を比較的的水平につくっている。これは如来形としては大きい方である。一方、鼻や口唇は小さく、耳は大きく長く、耳朶は太く厚目で垂れている。

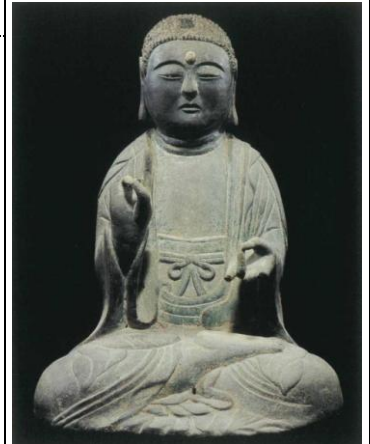
体部は面相と同様に量感があり、膝の厚みや組んだ足の足首などにそれが目立っています。ただ、両肩の張りは少なく、なで肩である。

衲衣は、通肩で腕の前でU字型に大きく開き、その中央には衲衣の紐の結び目があらわれ、肩から垂れ膝にかかる天衣の褶襞は、割合に薄く表現されている。そこには型にはまった作風が感じられる。

現存する指は、頭、体部に比べるとすんなりと伸びやかである。残念なことに右手第3・第5指、左手第2・第3・第5指の関節部は欠失している。

昭和59年3月21日 県重要文化財（彫刻）指定

唐津市山田 山田薬師堂



銅造如来坐像

（『唐津市の文化財』より）

◎引用・参考文献（出典）

◆『唐津市の文化財』
（唐津市教育委員会）

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts_lib/index.html